

Ⅱ 報告

神戸ウォーターフロントグランドデザイン（案）

1. 策定の背景と目的

ウォーターフロントエリアでは、アリーナの開業等、大きな節目を迎えて新たなステージに入ることから、これまでの計画（“「港都 神戸」グランドデザイン”、神戸ウォーターフロントビジョン）を再編・更新した新たな方針を策定する。本グランドデザインは、神戸空港の国際化など、本市をとりまく社会情勢が大きく変化する中で、今後、概ね10～15年間（2040年頃）で取り組むべき施策の方針を示すものである。

2. 神戸ウォーターフロントグランドデザイン（案）の内容

本グランドデザインでは、「海と山を感じ、みなとまちの歴史と未来をつなぐ、新たな価値創造」を全体のコンセプトとして、それを実現するための戦略や事業内容、将来イメージを定めその方向性に沿って取り組みを進めていく。

（1）全体コンセプト

海と山を感じ、みなとまちの歴史と未来をつなぐ、新たな価値創造

海と山を感じられる開放的な水辺空間

新しい発想や価値が生まれ、人が集い交わる交流拠点

港の歴史と新たな価値が交わり、国内外からの来訪者を魅了するまち



(2) エリアコンセプト

ウォーターフロントを3つのエリアに分けて、それぞれの特性にあわせたエリアコンセプトと導入を図る機能を示す。

エリア名称	中突堤周辺	京橋	新港突堤西
エリアコンセプト	みなとまちを感じる エンタテインメント空間	回遊・賑わいをつなぐ WFのエンタランス	リゾート気分をあげわせる空間 新たな感動や熱狂が生まれる場所
機能	観光・商業	モビリティの拠点・ 商業	アリーナ・緑地・マリナ 宿泊・文化・業務・居住 交流（海上）

(3) まちづくりの戦略

コンセプトを実現するために「移動・回遊」、「緑とオープンスペース」、「夜景・ナイトタイムエコノミー」、「民間投資によるまちづくり」の4つの戦略を定める。

戦略1（移動・回遊）

居心地がよく、歩きたくなる空間



・ウォーカブルな空間整備 ・新たな交通システム（LRT等）の導入 ・デジタル技術の実装

戦略2（緑とオープンスペース）

海をのぞみ、自然を感じる風景



・海を感じる風景・眺望 ・緑のネットワーク（グリーンコネクト） ・気候変動への対応

戦略3（夜景・ナイトタイムエコノミー）

神戸を象徴し、人を誘う夜景



・上質なライトアップやイルミネーション ・夜型観光コンテンツの充実

戦略4（民間投資によるまちづくり）

民間投資によるまちづくり



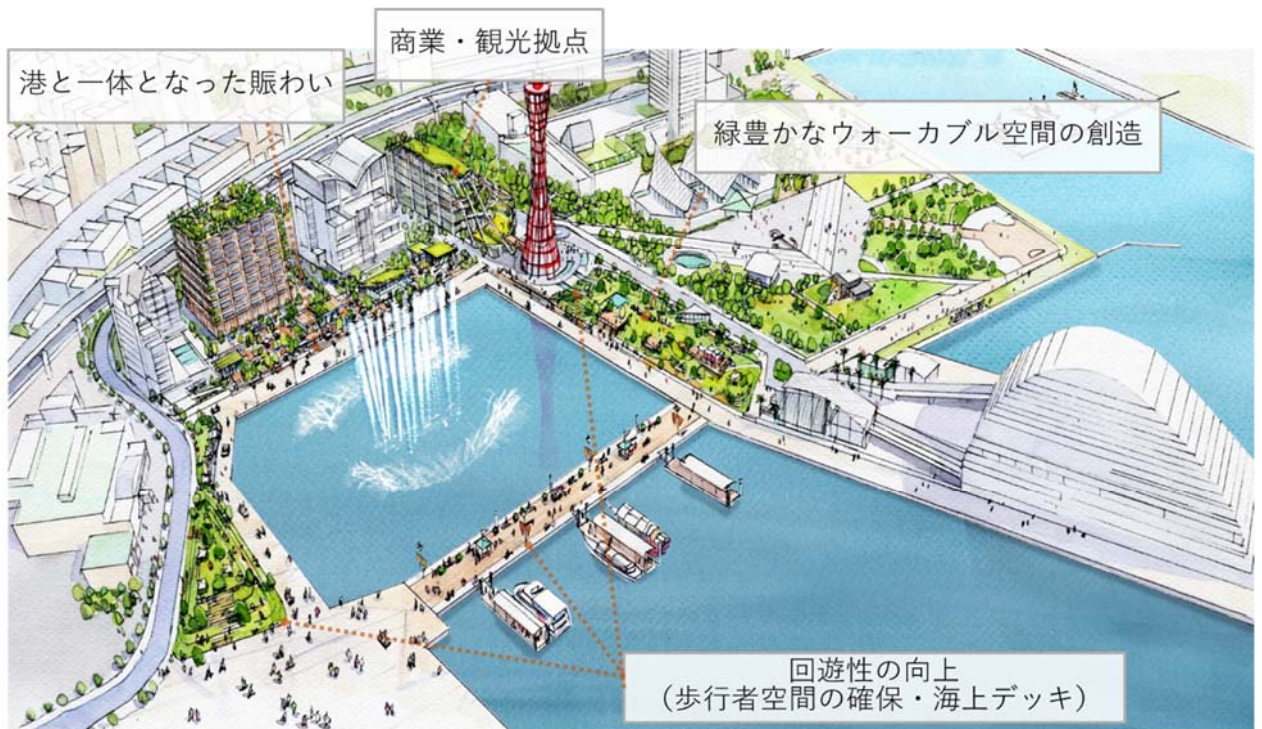
・高質なオープンスペースや回遊デッキの整備 ・エリアマネジメントによる賑わい創出
・民間投資を誘発する公共投資・規制緩和

(4) 各エリアの取り組み内容

今後、概ね10～15年間に取り組むべき方向性を示す。

① 中突堤周辺

- ・ 開放的でウォークブルな空間整備
- ・ 中突堤中央ビル再整備
- ・ かもめりあ周辺再整備



② 京橋

- ・船溜まりの埋立
- ・賑わい施設の誘致、緑地整備
- ・旧居留地との連携・回遊性向上



③ 新港突堤西

- ・ マリーナ誘致
- ・ 次期再開発（宿泊・商業施設の誘致）
- ・ 海のエントランス機能の強化



(5) ウォーターフロントの将来イメージ (2040年頃)



3. スケジュール

2025年3月頃 神戸ウォーターフロントグランドデザイン策定